

「まちカフェ×中央大学 コラボワークショップ」を開催

8月5日、復興まちづくり情報交流館でまちカフェ×中央大学のコラボ企画「コミュニティと防災について考えよう!」を開催しました。中央大学法学部政治学科の学生6名と、一般参加者8名が参加し、「震災によるコミュニティの変化、防災活動の状況」や「今後の防災活動のアイデア・提案」などについて話し合いました。

それぞれ3つのグループに分かれて、町の状況と他市の事例を踏まえた今後の防災活動の提案などの意見交換を行い、各グループからさまざまなアイデアが提案されました。

【グループ1の提案】

- 震災時、女川町には古きよき伝統として助け合いのコミュニティがあったが、震災後には町から移住する町民や仮設住宅での生活により、コミュニケーションがなくなるという問題が発生した。
- 女川町の地域の伝統行事である獅子振りイベントとあわせて「消防服が着られる」「バケツリレーができる」などの楽しみながら防災に親しむ取り組みを行ってはどうか。イベントを通してコミュニティが形成され、避難時の要援護者の把握につながる効果も期待できる。



【グループ2の提案】

- 自助と共助のバランスについては、その時々の判断となり、マニュアル化はできない。判断力を高めるには日頃の訓練が重要である。
- 日頃の訓練とともに、日頃のコミュニティも大事である。
- 女川町では、老人クラブのスポーツ大会が開催されているので、これを機にしたコミュニティ形成も考えられる。
- 今後に向けて「まもりんピック」というイベントを紹介したい。



【グループ3の提案】

- 仮設住宅で近所との関わり合いに問題が発生したという声もあったが、時の流れとともにコミュニティが形成されつつある。
- 自主防災組織については、参加者に土産を配るなど防災を楽しむ取り組みを行っている組織もあるが、これが町全体に広がっていない。
- 備蓄はあるに越したことはないが、日本人の助け合いのDNAがあるので、命が助ければ支援等でどうにかなる。いざというときに命を守るための防災教育が大切である。



「小・中学校整備基本計画 第1回ワークショップ」を開催

新たな小・中学校施設の整備にあたって、町民のみなさんから広く意見をいただく場として、2回にわたって開催されるワークショップの第1回が8月11日に開催されました。

昨年度のまちづくりワーキンググループの教育環境検討チームでご意見をいただいたメンバーを含め、多数のWGメンバーや高校生なども参加しています。今回は「こんな学校になったらいいな!」をテーマに、活発な意見交換が行われました。

「女川町民みんなが成長できる学校」、「町民みんなが先生であり生徒でもある学校」、「女川を知り、女川を外から眺め、女川への思いが高まる学校」など、地域全体との関わりを重視する意見が多く聞かれました。

